# 平成 26 年度「みえの現場・すごいやんかトーク」（亀山市）の概要【速報版】

10 月２０日（月）に「亀山市市民協働センター みらい」で「みえの現場・すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、空き店舗等を活用した地域の活性化に取り組んでいる「アートによる街づくりを考える会」関係者の皆さん７名に、活動内容や課題、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。

**【参加者からの発言】**

代表から会の活動について紹介していただいた後、メンバーの皆さんから、自身の主な活動の報告を含め、自己紹介していただきました。

（「アートによる街づくりを考える会」の活動内容紹介）

○「アート亀山」（2014 年からは「亀山トリエンナーレ」）の開催を通じて、商店街の中にアートを取り入れることで、空き店舗の多くなった亀山市東町商店街の活性化を目指して活動している。

**Q. 会の活動に参画して良かったこと、嬉しかったこと、成果についてお聞きしたい。**

○参加してくれるアーティストとの出会いを含め、縁を感じるつながりが生まれることが嬉しい。違うジャンルの人と友達になることで、自分の視野も大きく広がる。

○外から来てくれるアーティストたちが「亀山が好き」と言ってくれるのが一番嬉しい。自分は作家でもあり、絵描き仲間と親しく付き合える機会も貴重。また、当初は現代アートに理解のなかった行政職員や街の人たちが、何年も続けていくうちに現代アートに目覚め、作品について意見するほどになっているのも嬉しく感じる。

○若いアーティストや来場者が街を歩き、商店街の人たちに若さが蘇っていくのを目の当たりにし、現代アートはお年寄りを若返らせるような素晴らしいものなんだなと感じている。亀山はのんびりとして何もない所かもしれないが、「人」がいるということが一番の誇りだと思っている。

○自分は具象作家だが、全国から来てくれる様々なジャンルの若いアーティストとの出会いが嬉しい。また、イベント期間中には似顔絵師としても活動している。１年目からずっと描かせてもらっている家族がいるが、最初は夫婦に子ども１人の３人家族だったのが、昨年は子どもが３人の５人家族になっていた。
○公募制にしたことや、絵画と他のジャンルのコラボレーションなど一般の展覧会とは違う仕組みが、期待したとおりに実現できていると思う。自分は現役の美術教諭であり、生徒をボランティアとして連れてきていたが、その中から作家として今回のトリエンナーレに出展する子が出てきた。人が本気に変わっていくドキドキ感に満足感を覚える。
○アルバイトをしながら様々な公募展に応募している。「亀山トリエンナーレ」もその中の一つだったが、亀山を訪れ、街の人の自宅に泊めてもらい、美味しい食べ物など街の魅力に触れるうち、とにかく楽しみなイベントとしての期待が高まってきた。自分が住んでいるところは都会で、忙しく色々とこなすことができるが、亀山は「丁寧に生きる」ということを思い出させてくれる。
○アートに取り組むことで、空き店舗にも飾り付けるところが出てくるなど、街がおしゃれになってきた。イベント期間中、現代アートの中を通学していく中学生たちの姿を見ると、子どもたちにも刺激になっているように思えて、すごく嬉しい。

**Q．活動していく中での課題等、今後につなげていくことについてお聞きしたい。**
○三重県は子どもの全国学力・学習状況調査で低位だが、感性と学力は比例すると思う。現在、小学校の美術教育や音楽教育は専科教員によるものではない。専科制を検討してもらいたい。また、行政にも芸術の専門職がいない。違う形の雇用の仕方を県庁でも取り入れてほしい。それで学力は上がるはずだ。版画文化の根付いている秋田県や、美術館職員を県庁の観光課に置くような人事をしている福井県では、子どもの学力が高い。
○毎年の予算調製には苦労している。不況の中では寄付金等を集めることも難しい。人に期待をしてはいけないし、自分たちでやらなければいけないのは重々分かっているが、簡単な手続きで受けられる補助金をお願いしたい。補助金等の申請書類に時間を取られてしまっている。
○関が脚光を浴びている今、懐かしさのある関と現代アートに取り組んでいる亀山を、文化の過去・現在・未来を一緒にするような形で県が売り出してほしい。
○四国の「瀬戸内国際芸術祭」には大変な集客力があるが、極端に集客が高まったのは新しい美術館が出来てからだという。東町商店街の特殊な立地を生かして、ここを美術館にしたいと思っている。それにあたっては、県や国のお金で作るとランニングコストに回らないと思うので、企業型や市民型で構想しなければいけない。
○亀山トリエンナーレや亀山市がブランド力を高めれば、企業にとって支援する価値も高まるだろう。また、出展後に亀山に良い思い出を持ったアーティストが育ち、人を動かせるようになれば、さらに人が集まってくるだろう。
○市民の方が行政を引っ張っていくような場面がある。「納税者はお客様」という考えが、行政には少し欠けているのではないかと思う。
○三重県内には芸術学部がない。「福祉とアート」というのはこれから大きなテーマに

なるので、県立看護大に芸術学部を創設してはどうか。

**【知事の発言】**

○「丁寧に生きる」というのは大事な言葉だ。亀山に魅力を感じ、移住を検討されるなら、様々な支援策があるので言ってもらいたい。

○住民への行政の関わり方がサービス意識に欠けるということについては、しっかり反省して対応を変えていかなければいけないと思っている。

○広域行政体としての県が文化振興に果たすべき役割を「人材育成と情報発信」だとする文化審議会での有識者の意見をふまえた、新しい文化振興方針をまもなく公表する。学校教育の中で全てを引き受けるのがいいかどうかは別にして、専門性の高い人材を支援する仕組みなど、人材育成と情報発信に関する事業を今後も構築していきたい。

○文化に関わるような活動こそ、「金の切れ目が縁の切れ目」になってはならないと思っている。将来の財政状況によって公の補助金等は途切れてしまうおそれがあり、どういった分野であれ、団体の運営費に対して行政が補助金等を出すことには私は基本的に賛同しない。県としては、人材育成、情報発信や、民間の財団等と各団体との橋渡しなどで、しっかり役割を果たしていきたい。

○皆さんが「つながりと変化」を生み出してこられたことが、よくわかった。トークは101回目を迎えたが、多くの地域で悩まれていることが、まさに「つながりと変化」をどう生み出すかということだ。それを見出せている皆さんは本当にすごい。

「アートによる街づくりを考える会」の皆さんは、商店街にアートを持ち込むことにより活性化を図るため、平成13年1月に設立された団体で、商店街の空き店舗等を使用し、アート作品の展示を行っています。